

第33期修了式 学長式辞

第33期の修了式にあたり学長として式辞を申し上げます。

一年間学習を積み重ねてそれぞれが技術や教養などを身に着け、さらに学友との親交を深められ人生に一層の彩を添えられて本日修了式を迎えられた皆さん、誠におめでとうございます。このおめでたい席に来賓として北部支所長清水直樹様、福山市議会議員 小川眞和様、生田政代様、福山市北部地域振興課小林課長様、そして皆様をご指導いただいた講師の先生方に錦上花を添えて頂いて盛大に修了式を盛大に挙行できますことをうれしく思い深く感謝申し上げます。

さて、今年度は新型コロナウイルスの感染症が5類に分類変更があり、世のなかの動きが、いわゆるコロナ前に戻ってきました。多くの外国人が日本にやってきて、東京の浅草や京都の観光地などはたくさんの観光客であふれています。市民大学は昨年度第32期に比べると、特別講座への参加や先生や学生の作品の鑑賞するために市民大学に足を運んで来られた市民の方は増えたと思っています。

しかし、学生数は減っています。以前は千人以上の学生が元気に通学されていましたが、新型コロナが感染拡大してからは800人台に減っています。もしかすると、一年ごとに学生の年齢が上がり、体調的に課題が出来たのでしょうか。コロナで家にいることが増えたことで、外出する楽しさを忘れたのでしょうか。70歳まで働く意欲があれば働くことができる環境が整ってきています。そのためでしょうか60歳代の男性学生の人数が増えてまいりません。フルタイムで勤務を続ける人や働きながら町内会の役員の仕事をしている人などが増えているのではないのかと推察しています。学生の確保が一段と難しくなっているようです。

しかし、途中で退学される方は思いのほか少なく最後まで熱心に学習に取り組まれました。先日行われた修了発表会の内容を見させていただくとその質の高さに感心させられました。コーラスの2クラスがコーラスフェスティバルに参加いたしました。リーデンローズのステージで堂々と日ごろの成果を披露していただきました。「緊張したけれど良い経験になった」「最初は出たくないと思ったけれど、出演して良かった」などの感想を頂いています。絵画や書道、歌なども一年間の成果が表れていました。さらに油絵とパッチワークの大学院では展覧会に出品できるような素晴らしい作品ができています。竹工芸は先輩たちに助言をいただきながらひご作りから熱心に取り組まれました。少しずつではありますが学習の中身が充実していることを嬉しく思っています。

次年度の学生募集は終わりました。しかし、特別講座を計画していますからどうぞホームページを見ながら通ってほしいと思っています。こう考えるのは単

に市民大学の学生を増やしたいという気持ちだけではありません。2025年問題をご存じですか。これは戦後生まれの団塊の世代の人が後期高齢者になるのがこの年なのです。

2025年問題の社会的影響は、まず、社会保障費の負担が重くなる、そして医療・介護の体制維持が困難になる、さらに後継者不足によって廃業がふえ経済の縮小を加速させることが考えられています。

さらに、25年後の2050年問題はもっと深刻かも知れません。人生百年時代に生きる私にとってはちょうど百歳のころの話です。もう関係ないと思われるかも知れませんが、子どもや孫が直面する問題なのです。若い者につけを残してはいけないのです。

認知症の人数は今が670人から700万人、2050年には800万人からもしかすると1000万人とも言われています。介護職の人が2~30万人も不足するのです。私が認知症になったら息子が仕事をやめなければならない問題にぶち当たるのです。介護のために仕事をやめたり、多くの時間を介護にさいたりして転職しなくてはならない人も出てきます。働き手が減ることは社会福祉関係の予算の比率が増え、年金も厳しくなると考えられます。私たちより若者の方が心配しているのです。社会問題なのです。

日常生活も大きく変わってきてもっとも変化の激しい時代になるでしょう。私たち高齢者が大変になるでしょう。自動運転が当たり前になったり、テレビ電話が日常的に使われるようになったりしてきっと便利になるでしょう。しかし、便利な世の中が私たちにとって必ずしも暮らしやすい状況になるとは限らないと考えています。マイナンバーカードに免許証や健康保険証と結びつける動きになっていると聞いています。大丈夫でしょうか？少々心配です。IT化のなかで、若い人についていけない状況もさらに激しくなります。

元気で、目まぐるしく変わる社会に合わせて生き抜かなくてはならない時代なので、私どものような生涯学習施設で学習を始める人が減っているのです。そうすると75歳から90歳ぐらいまでの間はどのように過ごすのでしょうか。趣味もなく隣近所に親しく話ができる友がいない寂しい人が増えてきてしまいます。家の中に年寄りが二人だけで暮らす生活を思い浮かべてみてください。寂しいものです。

私たちだけでなく子や孫にも将来にわたって豊かな暮らしができるよう、元気で働き、楽しく過ごし、豊かに暮らせるよう私たちが元気でなくてはならないのです。

どうか、趣味を自宅の近くで見つけて楽しく学び、近所に心の通う友達とコミュニケーションを豊かにしてつながる喜びを感じ、互いに感謝を伝えあいながら元気で過ごしていただきたいと切に願っています。私たちの北部市民大学の

ような生涯学習施設の役割が大きくなると考えています。

これからも、皆さんが意欲をもって楽しく学習して自己実現が図れますことを祈念して式辞といたします。

2024年（令和6年）3月9日

福山市北部市民大学 学長
吉川信政